

経済的な光ネットワークを実現する高機能集積化光スイッチングノードの研究開発(富士通株式会社) 平成17年度中間評価結果

項目	評価 ランク	所見	再評価 ランク	再所見
総合所見	A	<p>(技術: 研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p> <p>構成機能モジュールの開発から光スイッチングノードサブシステムの実現を目指した大きなプロジェクト研究である。中間評価の段階では、一部のモジュール開発に当初計画に対する遅れが見られるが、方向性は定まっており、研究期間の後半で十分挽回できるもの予想する。また、モジュールの構成だけでなく、その実装法も含めた製作技術が関連分野に与える影響も大きい。大部分の機能モジュールにおいて要求性能を達成する見通しが得られており、今後のサブシステム構築と特性評価の結果に大いに期待が寄せられる。</p>		<p>(技術: 研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p>
		<p>(事業化: 事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p> <p>地域網領域のネットワークにおけるボトルネックを解消する技術であり、ニーズの高い技術開発である。事業化のシナリオ、収益の可能性等については妥当な状況である。技術的観点の影響として、実現する技術方式の研究開発経緯から、当初の想定した技術方式について幾つか変更の必要性が出ており、それらは集積性(サイズ)の点から見ると、不利な方式を採用せざる得ない状況と見受けられる。事業性にも影響が大きい「現状技術に対して20分の1のサイズおよび価格」の達成目標を落とさないで、当初目標どおりの高機能光スイッチングノードシステムの開発達成を期待する。</p>		<p>(事業化: 事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p>